

令和5年度 自治会連合会と地域市民の集い（白糸台文化センター圏域）・議事録（敬称略）

1. 日時 令和6年5月26日（日）午前10時～12時
2. 場所 白糸台文化センター 講堂
3. 出席者 33名
4. 書記 松木紀美子
5. 会議の概要 【司会進行：棕田事務局長】

（1）会長挨拶 志水会長

（2）府中市自治会連合会役員と出席者自己紹介

自治会連合会：志水、筒井、棕田、林田、川辺、福田、谷本、松木（8名）

白糸台文化センター圏域：若松町一丁目自治会、小柳町三丁目自治会、若松常久自治会、清水が丘3丁目自治会、車返住宅管理組合、小柳町一丁目自治会、白糸台東部自治会、府中武蔵野台グランドハイツ自治会（8団体：15名）

災害時クッキングのみ参加：10名

（3）府中市自治会連合会・自治会についての説明（棕田）

（4）五部会の活動状況

- ・市民協働対策部
- ・生活安全対策部
- ・環境対策部
- ・福祉対策部
- ・デジタル化対策部会
- ・助成金

○補足説明

- ・自治連ニュースを使って①賠償責任保険の紹介②市長との懇談会の紹介③機材シェアの紹介④協賛会員制度の紹介

Q：デジタル化を検討しているが、無料で使えるサービスが個人向けのものだけで、自治会などの団体向けのものがない。自治連でまとめて対応ができないか？

A：無料のものを組み合わせることで対応ができる。

（5）懇談会

①4件で3週間かかって回覧板が回ることがある。デジタル化が必要ではないかと思っている。どう進めるのが良いのか？

自治連：オープンチャットや公式 Line アカウントをとってする方法もある。いずれにしても、紙と平行して使う必要がある。

若い人に入ってもらうために、デジタル化が必要ではないか？

自治連：それはある。

②高齢化が進んでいるので、デジタル化はあまり考えていない。協賛会員から会員である自治会に対して何かのサービスはあるのか？

自治連：高齢者に無理やりデジタル化を進めることはできない。あくまでも解決方法の一つとして提案している。協賛会員からの支援は自治連に対してのみとなる。例えば、ある町会では、高齢者は無理なく、シニアのサークルの出欠連絡等で Line を使っている。

③市の要支援者の仕組みに、届を出すこともできずに困っている方がいるが、支援の仕組みをどうしたらよいか悩んでいる。熱中症対策の連絡が来たが、市のサポートの体制が弱い。

④高齢者の支援はどうやっているのか知りたい。

⑤管理組合を除くという助成金が多いが、いまさら自治会を作るのが難しい。

自治連：リムザや多摩川通り住宅では、自治会費はとらずに主に廃品回収の収益で賄っているのでは負担感がないのでは。

⑥ドローンを取り入れた活動をしている自治会があると聞いたが？

自治連：分梅町連合自治会がテストしている。

高齢者の一人暮らしが増えている。熱中症・災害時のリストをもとに連絡しているが、怪しい人だと思われることがある。また、できる範囲の活動をするため町会で支える会を作っている。地道な活動で貼るが、防犯パトロールも毎月行い、ごみの不法投棄などを発見している。

⑦役員会で話題になるのは、コロナ以降対面の活動をへらしているのでは、町会のつながりが難しくなっていること。社会福祉協議会や民生委委員などとも支援者の情報が共有しづらく、支援がやりづらい。個人情報保護法の壁がある。PTAも任意加入であり若い人もマンションなどの方で未加入が多くなっている。

自治連：災害時要支援者名簿は、法制度も変わって、災害時などには、自主防災組織には提供してもよいことになっている。また、自主防災倉庫も講演で作りやすいルールになってきている。

しない。

レンタルウォーターサーバーの補助金事業について説明

(6) 災害時クッキングのご紹介・試食会

災害時クッキングのレシピをもとに説明。

小さいおにぎりとお蒸しパンを試食

(7) 閉会挨拶